

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

男女共同参画室

SANKAKU Letter No.12

世田谷 オープンキャンパス
目指せ!やま都市なでしこ

HOT TOPICS

東京都市大学オープンキャンパス・理工系女子応援企画
「目指せ!やま都市なでしこ」開催



8/30(土)卒業生からのお仕事紹介
池亀温子さん
(八千代エンジニアリング株式会社)
工学部・都市工学科 卒業

7/20(土)卒業生からのお仕事紹介
吉田幸恵さん
(株式会社ジャムコ)
工学部・機械工学科 卒業

また、当日は別会場に「女子学生による相談コーナー」を設置。「学科が絞りがきれない」「研究内容を教えてほしい」という進学に関する相談から、「一人暮らしが不安」「一日のスケジュールが知りたい」といった生活に関する質問まで、多岐に渡る内容となりました。最も多く聞かれたのが「理工系は女子が少ないことが不安」というもの。しかし、やま都市なでしこから直接、都市大でのリアルなキャンパスライフを聞くことで、安心していただけたようです。今回いただいた貴重なご意見やアンケート結果は、今後の活動の参考とさせていただきます。

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

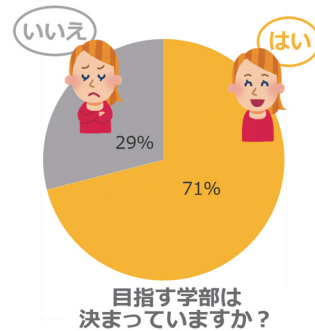
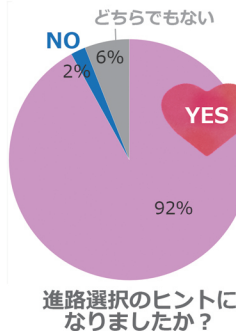
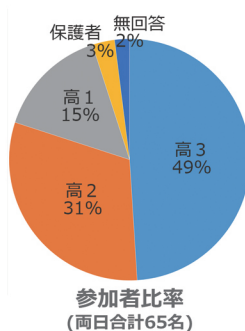


男女共同参画室では、去る2014年7月20日(日)、8月30日(土)の2日間、「東京都市大学オープンキャンパス」にて、理工系を目指す女子中高生に向け、『目指せ!やま都市なでしこ』を企画・開催しました。本企画は、工学部及び知識工学部で学ぶことの魅力を伝えるとともに、実際の理工系女子大学生に接することで、理工系志望の女子学生を増やしていくことを目的としたものです。

当日は二部構成となっており、第一部では、本学の女性卒業生による、仕事のやりがいや理工系分野で働く魅力を伝える「お仕事紹介」を、第二部では、「理工系女子学生によるパネルディスカッション」と題し、6名のパネリストそれぞれから、専門分野・研究内容や、都市大の魅力、高校生活でやっておいた方がいいことなどを伝えました。



●参加者アンケートより



活動報告1: 9/20(土)日独国際シンポジウムに登壇しました

2014年9月20日(土)、日独国際シンポジウム「学術研究職におけるジェンダー-ドイツの取り組みの実践例」-男女共同参画、多様性と機会均等、仕事と生活の調和-(於: 日本大学会館)にて、岡田室長が「東京都市大学の男女共同参画の取り組みの実例」を発表しました。このシンポジウムは、ドイツ研究振興協会、日本大学、津田塾大学、東京都市大学の主催で行われ、日独の男女共同参画の現状(特に学術研究職における実情)を確認し、双方の取り組みを共有することにより、今後、両国での男女共同参画推進に役立てることを目的としたもの。活発な意見交換がなされた、有意義なシンポジウムでした。



ドイツでは、2013年に女性研究者の割合が27%を達成しました。(日本は14%)
その成功の秘訣をうかがいました!



男女共同参画推進に当たり、ドイツ代表からのアドバイス



男女共同参画の成功の鍵はなんですか?

まず、**行動を行う機関が事業に対して、集中すること**。理系女子へのサポートを手厚くすること(育児への支援など)。理系女子に限らず、ジェンダープログラムを授業に組み込む。一番重要な点は、女性研究者や教授の数を増やしていくこと。それに当たりロールモデルを明確にすることでした。



日本では各組織がバラバラで、なかなか同じ目的に沿って行動ができていません。ドイツではどうですか?

ドイツでも道のりは、大変険しいものでした。**目的がなく混沌としている中、とことん話し合っ、まずはプランを作ることを行いました**。プランを作るのに2~3年を要しましたが、地域的な協力体制や、チームの協力、学びあう姿勢が高かったこともあり、モチベーション・集中力を維持してプランを作成する事ができました。



そのプランを採用したのは誰ですか?
(リーダーシップは誰がとったのか?)

リーダーは誰でもいいのです。今回の成功は、プランのアイデアが素晴らしいものであり、そのアイデアへの賛同からチームの協力体制を築けたことが大きいです。誰をリーダーにするのかが問題ではなく、**進めたいと思う人物が進めていくことが重要**です。



理系の志望者を増やすために、行っている取り組みはありますか?

ドイツでは、**ガールズデイ**というドイツ政府が女性の技術職への進出推進を目標として2001年から始まったキャンペーンがあります。主に男子が選ぶような職業に、多くのメーカーや研究機関の協力のもと、女子が見学・職場体験を行っています。また、ボーイズデイという日もあります。



重要!

まとめ

- 1、男女差にとらわれない柔軟な教育を行う
- 2、文系理系の垣根を無くす
- 3、大学間で連携をして推進する
- 4、国際的に情報共有をし協力体制をつくる

活動報告2: 7~9月「キッズベースキャンプ」にて科学実験教室を開催しました



- 7/2 KBC日吉
- 7/16 KBC多摩プラーザ
- 8/25 KBC青葉台
- 9/5 KBC雪谷ウエスト
- 9/10 KBC桜新町
- 9/24 KBC武蔵小杉

サンカクレンジャーの協力のもと、KBC7施設において約100名の子ども達に、科学の楽しさを伝えました。学生が中心となってKBCの子ども達のために実験内容を企画した、電気をおこして風車を回し紙風船を浮かす実験「わくわく発電」を行い、「発電」のしくみを楽しみながら体感していただきました。今後も活動を続けていきます。



次号は、12月1日発行予定です。
「NISSAN×都市大リケジョ」プロジェクトを特集します!お楽しみに!